

## 第42回 KTSM 実技セミナーin はちのへ 開催報告



【開始日時】平成28年11月27日（日）9：00～13：30

【開催場所】八戸看護専門学校

【主催】はちのへファミリークリニック

【後援】株式会社大塚製薬工場、株式会社クリニコ、日清オイリオグループ株式会社

【開催目的】対象者を全人的に捉え、包括的な食支援に対する知識を学ぶとともに、安全、安楽、自立を促す食事介助の基本技術を習得してもらうこと、また東北での摂食嚥下に関わる医療従事者の連携を目的として開催する。

### 【アドバイザー】

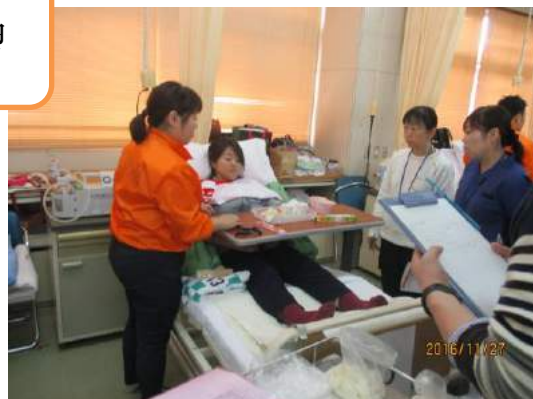
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 （神奈川）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
竹市 美加 （大阪）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	看護師（摂食・嚥下障害看護認定看護師） KTSM 実技認定者
一瀬 浩隆 （愛知）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事 あい訪問歯科クリニック 気仙沼市立本吉病院 一関市国民健康保険藤沢病院	歯科医師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
金 志純 （東京）	社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院	看護師（摂食・嚥下障害看護認定看護師） KTSM 実技認定者
佐藤 さと子 （宮城）	気仙沼市立病院	看護師 KTSM 実技認定者
三束 梨沙 （宮城）	気仙沼市立病院	言語聴覚士 KTSM 実技認定者
熊谷 良弘 （宮城）	特別養護老人ホーム 恵潮苑	看護師 KTSM 実技認定者
高橋 瑞保 （山形）	山形県立中央病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者

【セミナーの様子】

セミナー講演の様子



口腔ケア演習



スクリーニングテスト演習



食事介助演習（ベッ

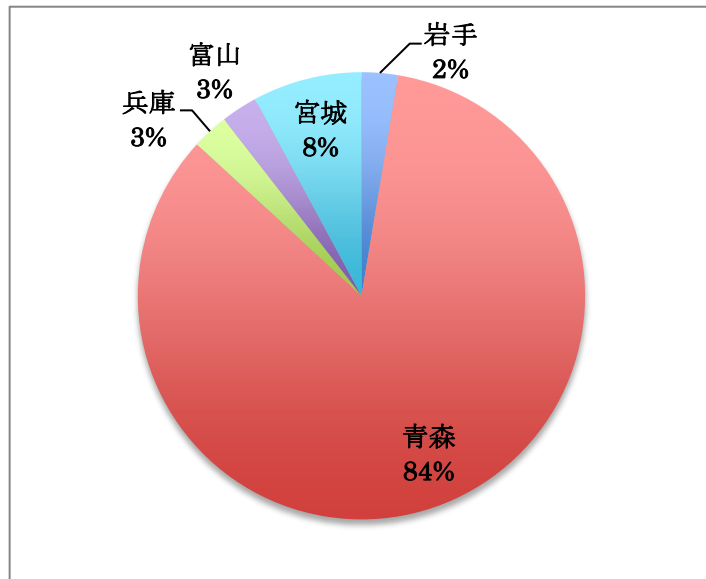
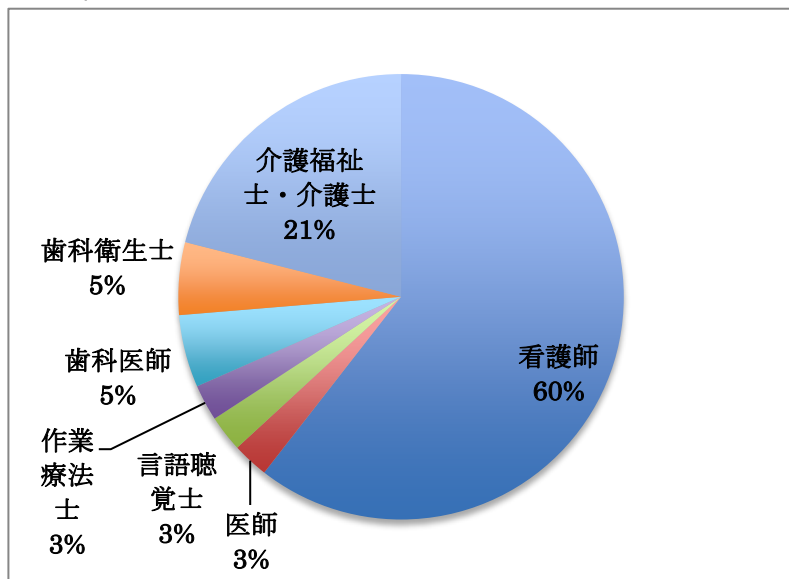


食事介助演習（車椅

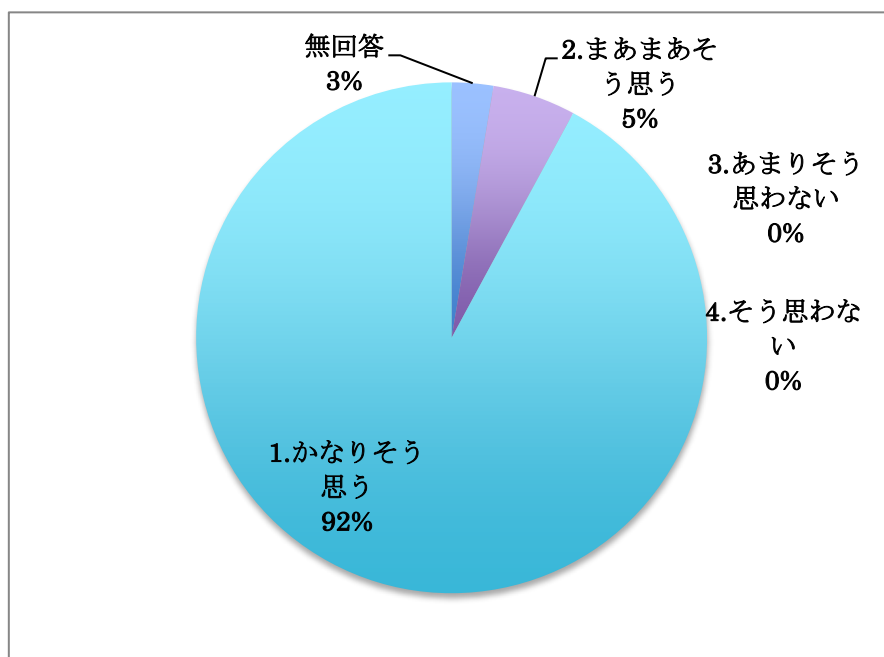


【アンケート結果】（解答率90%）

### Q1. 参加者の職種、勤務先の都道府県



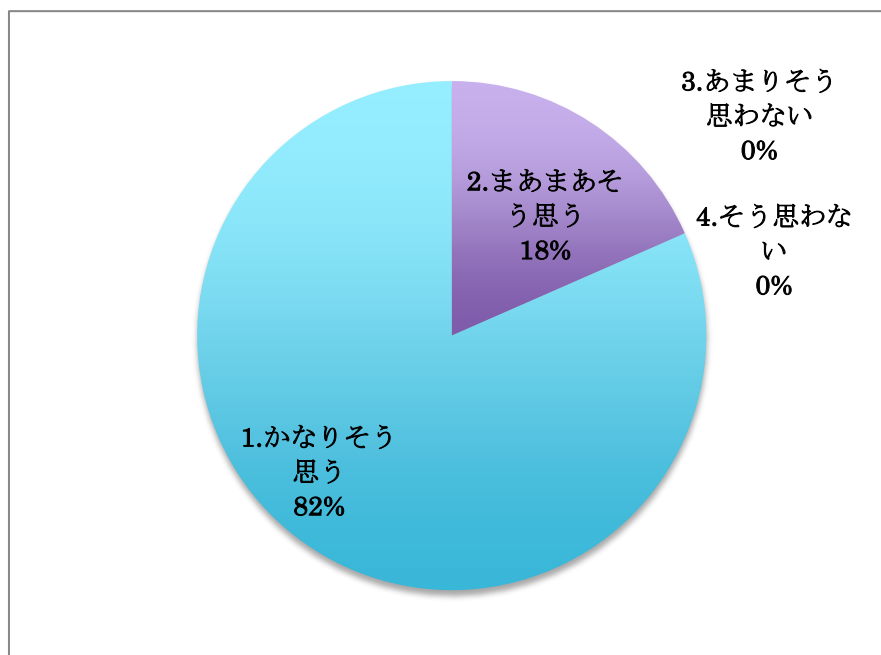
### Q2. セミナーの内容はスキルアップにつながったか？



- 患者役をやってみてどのように介助してもらおうと食べやすいかと考えた。
- 自分の両親などに介助することになるので口腔ケア、介助方法もスキルアップしていきたい。
- 訪問看護では食事介助、食事状態を見る機会が少なかったため関心があまりなかったが今回のセミナーで関心を持った。
- 間違った介助の仕方をしていることに気付いた。食事に対しての考え方が変わった。
- 食事介助の注意点や開口・閉口しない方へ援助方法を実践していきたい。
- 自分の癖を先生に指摘していただけたので介助で注意していく具体的ところがわかった。
- 姿勢調整やスプーンの運び方など普段の疑問が解消できた。
- 自分の癖を先生に指摘していただけたので介助で注意していく具体的ところがわかった。

- 姿勢調整やスプーンの運び方など普段の疑問が解消できた。
- 介護（介助）知識不足を実感した。
- 感動しました。
- 介助時のスプーンの動きが良く分かった。
- 自分の食事介助の未熟な点に気付いた。
- ポジショニングの大切さを改めて知らされた。
- 今まで介助したことがなかったのでポジショニングなどをしっかり復習しもう一度セミナーを受けたい。
- 食事介助で自分の知らない技術（スプーンの入れ方）を学べた。
- ポジショニングの大切さ、捕食介助や声かけの必要性を学べた。
- スプーンの使い方（角度、向き）食べる側の気持ちをもっと考えて行っていきたい。
- スプーンの使用法、ポジショニング。
- きちんと身につけていないことがわかり訓練を積んで次回に臨みたい。

### Q3. セミナーの内容は実戦の場で活用できるか？

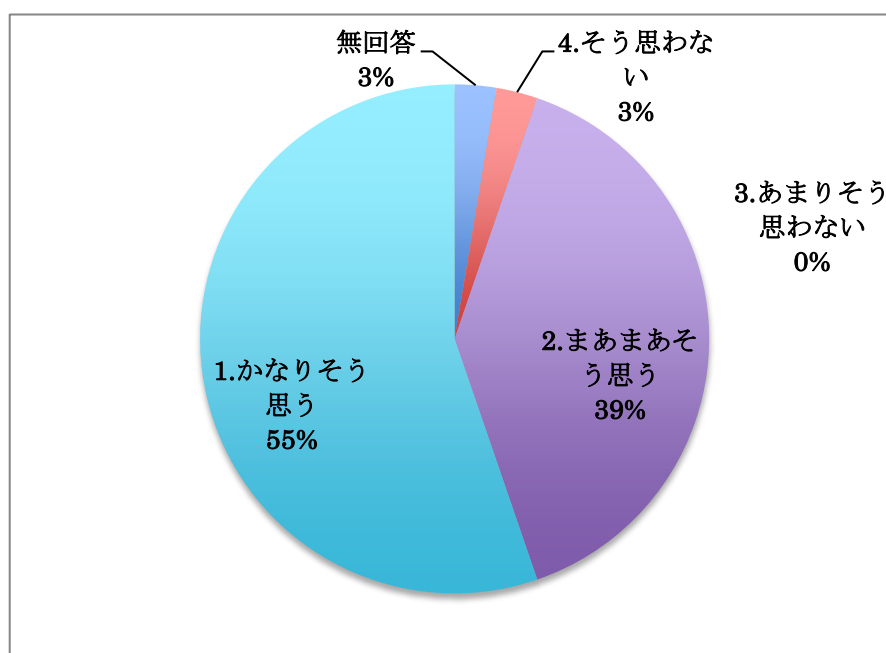


- 嚥下状態を観察、うまく摂取できていない人へのアプローチ（姿勢、介助の仕方、環境など）考え活用できる。
- 主に口腔ケアになるが往診などで行ってほしい。
- 水飲みテストやFTは活用できそうだと思う。
- 毎日の在宅歯科医療の場で。
- 食事介助時の五感の刺激など当たり前のことに今まで気がつかなかった点に気付いた。
- 評価、家族、施設への指導として活用できる。
- ポジショニングをしっかり行う。ギャッチアップの仕方、声のかけ方、患者の立場に立ち注意深く観察、本人の手になるようにアシストしていく。
- わかりやすい説明で実際の現場で実践できるようにしてほしい。



- 病棟での食事介助時のポジショニングや介助時。
- 絶食の患者に対し嚥下の評価を ST だけでなく看護師もできると思った。病棟で実施したい。
- 「食べれなくて」と訪問依頼がくるがその時に積極的に関わりたい。
- EM テーブルなどの使用。
- 実際の食事介助の場面で。
- 口腔ケアは実践できそう。KT バランスチャートで全体像を把握しケアにつなげたい。
- スクリーニング評価、食事介助など臨床で活かしていきたい。
- 食事介助に活用。
- ポジショニングを取る時、あるものを使うやり方、工夫の仕方が参考になった。
- 車椅子座位の補正。
- 食べる力、座る力がなくても人生最後まで食べることをあきらめない。
- ポジショニングがとても大事であると感じた。
- 食事のセッティング、水飲みテストやフードテストの活用
- ポジショニングの大切さ、介助時のスプーンの位置とリズム、KT バランスチャートの活用。
- 本当に口から食べられないのかアセスメントして関わりたい。
- W/C の患者様のセッティングの仕方が活用できる。スプーンの運び方が重要。
- 口腔ケアや治療のポジショニングに活用できると思う。
- 食事介助。ポジショニングの知識を共有できる。全介助で食べている入所者が少しでも自力摂取できるようお手伝いしたい。
- むせこみのある利用者の介助時、どのような観察、ケアをしなければならないかわかった。
- ポジショニング、全介助から自力摂取への援助につなげていきたい。
- 食事介助時しっかりとした姿勢、介助を全体から見て本人の一番良い状態で行いたい。
- 食事介助の場面。
- ポジショニングの活用。

#### Q4. 自ら企画しようと思うか？



- 往診先や施設で展開してみたい。
- 症例をあまり持っていないのでうまく説明するには自分自身の経験を積む必要があると思った。
- 自らのスキルを上げた上で行っていきたい。
- 病棟での指導
- 機会があれば、まだ自分で企画できるレベルに達してからだと思う。
- 先月、企画実施した。
- 協力者がいれば。
- ぜひ自院で開催したい。院長も望んでいます。青森慈恵会病院です。
- すべての職員に伝えないと意味がないと思う。
- 全職員が同じ対応でできるようにしたい。
- 委員会の勉強会で取り入れたい。
- 県内、津軽地区でもやってほしい。

Q5. 「口から食べる」ことに関する内容で、今後の実技セミナーで取り上げてもらいたい内容は？

- 歯科医師の介入例を多く知りたい。
- VFの信憑性と問題点について。
- ポジショニングを詳しく教えていただきたい
- ポジショニングを個別でできるようにケースごとのやり方を学びたい。



ご参加いただいた皆様、はちのへファミリークリニック、八戸看護専門学校、日清オイリオグループ株式会社、株式会社クリニコ、株式会社大塚製薬工場、ご協力い

ただきました皆様、ありがとうございました！